フローティングライセンス
サーバー設定手順書
～ソフトウェア認証編～

第2版

Index

0.はじめに 1
1.動作環境 2
2.Sentinel RTEのインストール方法 3
3.フィンガープリントの作成方法 4
4.ライセンスファイルの適用方法 5
5.Sentinel RTEの設定方法 7
6.Identity Stringの作成方法 9
7.MDiA独自設定の追加方法 12
8.注意点 13
9.Sentinel RTEのアンインストール方法 14
10.トラブルシューティング 15

0.はじめに

・ソフトウェア認証は、Model Dr. MDiA v4.3.0以降の認証方法です。
v4.3.0以降と過去バージョンをフローティングライセンスで併用したい場合は、
問い合わせ窓口までご相談ください。

・本ドキュメントはライセンスサーバー側の設定のみが記載されています。
クライアント側の設定は「クイックスタートガイド.pdf」に記載されている
<フローティングライセンスの場合>を参照してください。

1.動作環境

・フローティングライセンスを使用するためには、
Sentinel RTEをサーバーとなるPCにセットアップする必要があります。

・Sentinel RTEは下記Windows環境にインストールできます。
クライアントOSでもサーバーOSでも問題ありませんが、安定稼働の観点ではサーバーOSが望ましいです。

- Windows 11
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

・ソフトウェア認証作業について、
Sentinel RTEを下記のタイミング時に使用します。
①フローティングライセンス初回設定時
②認証サーバーPC変更時
③フローティングライセンス更新時
④MDiA使用PC変更時
各作業タイミングで実施する作業内容が異なりますので、下記表をご確認ください。

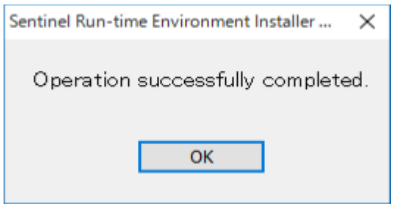
作業内容	フローティング ライセンス初回設定時	認証サーバPC 変更時	フローティング ライセンス更新時	MDiA使用PC 変更時
2.Sentinel RTEのインストール方法	○	○	×	×
3.フィンガープリントの作成方法	○	○	○	×
4.ライセンスファイルの適用方法	○	○	○	×
5.Sentinel RTEの設定方法	○	○	×	×
6.Identity Stringの作成方法	○	○	×	○
7.MDiA独自設定の追加方法	○	○	×	×

2.Sentinel RTEのインストール方法

・ 認証サーバーとするインストール先の環境（PC）にて、以下の手順に従って
インストールをお願いします。

①コマンドプロンプトを「管理者として実行」で開きます。

② 弊社提供の「**haspdinst_112987_<バージョンNo>.exe**」※1 ※2を、①で開いた
コマンドプロンプト上で「**haspdinst_112987_<バージョンNo>.exe -install**」を
入力して実行します。
以下のメッセージが出てきたら、セットアップは完了です。



※1 WindowsServer2025にインストールする場合は「**haspdinst_112987_v10_2.exe**」、
WindowsServer2016～2022 及び Windows11 にインストールする場合は
「**haspdinst_112987_v9_0.exe**」を使用してインストール作業を進めてください。

※2 「**haspdinst_112987_<バージョンNo>.exe**」は、「Sentinel RTE」フォルダ内に
格納されています。

③ブラウザーで以下のページにアクセスします。
http://localhost:1947

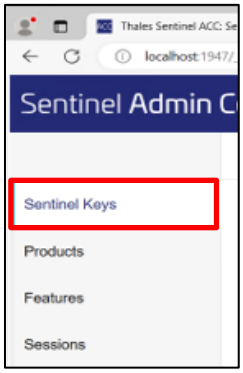
④Sentinel ACCのページが表示されれば、インストールは完了です。

3.フィンガープリントの作成方法

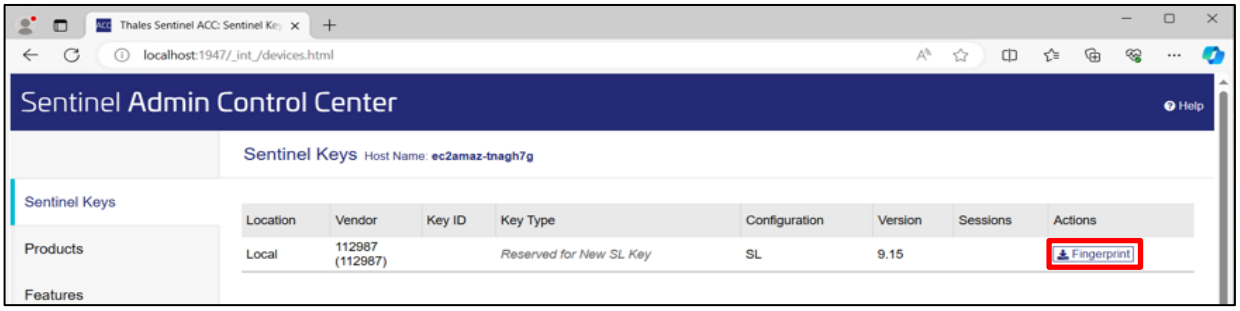
・ フローティングライセンスファイル作成時のインプットとなるフィンガープリントファイル(拡張子が.c2vのファイル) の作成 及び 送付をお願いします。

①ブラウザーで以下のページにアクセスします。
http://localhost:1947

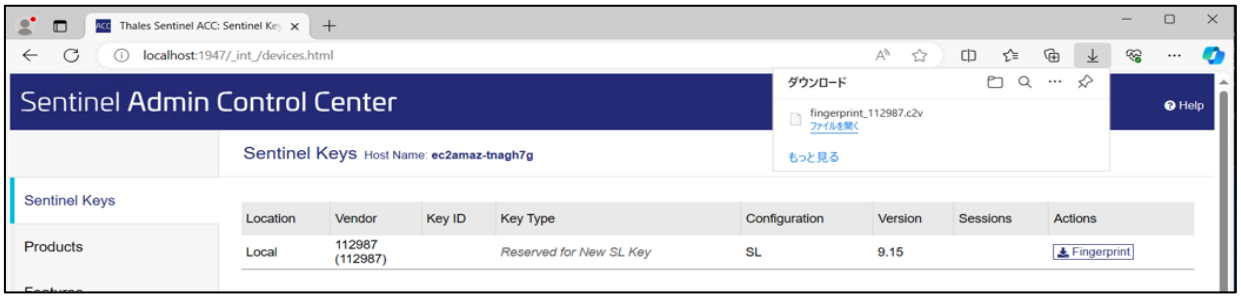
②オプションの「**Sentinel Keys**」をクリックします。



③Vendor=**112987**、Key Type=**Reserved for New SL Key** のキー情報が表示されたら、「Fingerprint」ボタンをクリックします。



④フィンガープリント(拡張子が.c2vのファイル)が作成されるので、任意の場所に保存します。



⑤フィンガープリントを弊社まで送付してください。

以上で、フィンガープリントの作成は完了です。
弊社にて、フィンガープリント受領後、
フローティングライセンスファイル(拡張子が.V2CPのファイル)を作成、送付します。

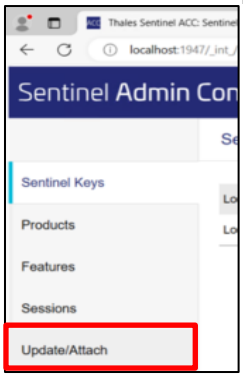
4.ライセンスファイルの適用方法

・弊社より送付されたフローティングライセンスファイル(拡張子が.V2CPのファイル)を
Sentinel RTEにインストールして頂くようお願いします。

①弊社より送付されたフローティングライセンスファイルを取得、解凍します。

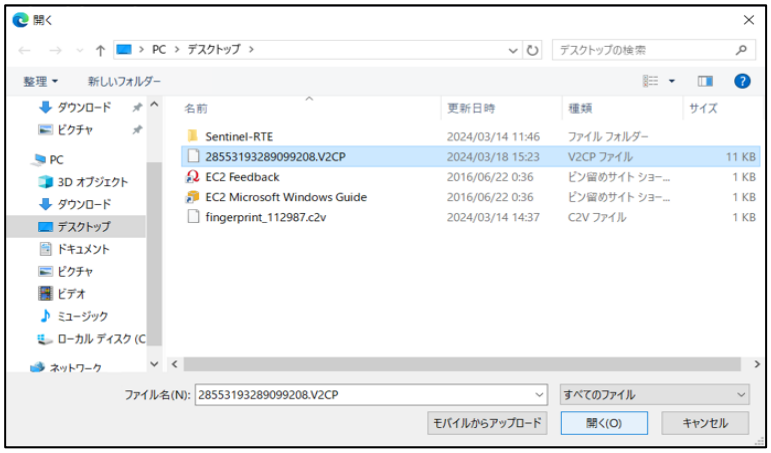
②ブラウザーで以下のページにアクセスします。
http://localhost:1947

③オプションの「**Update/Attach**」をクリックします。

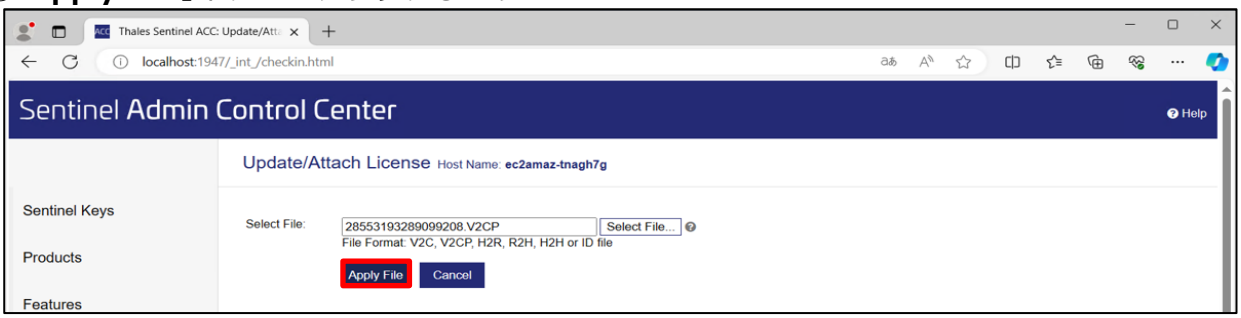


④Update/Attach Licenseのページが開いたら、「**Select File...**」をクリックします。

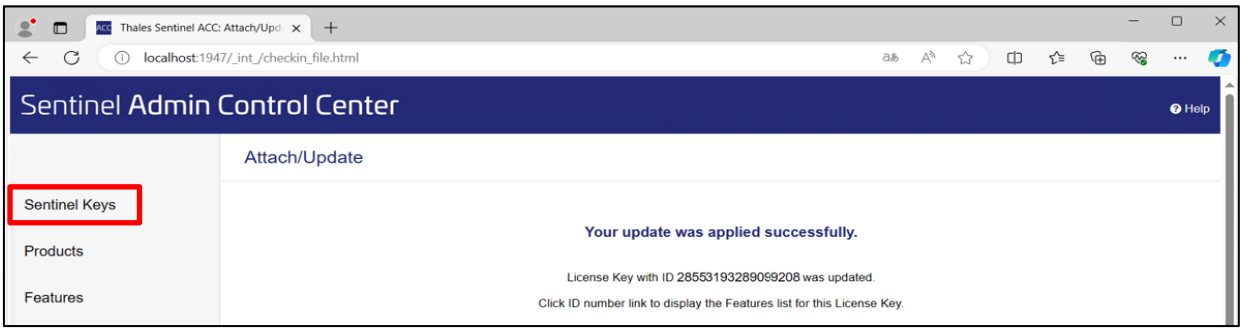
⑤取得したフローティングライセンスファイルを選択して「**開く**」ボタンをクリックします。



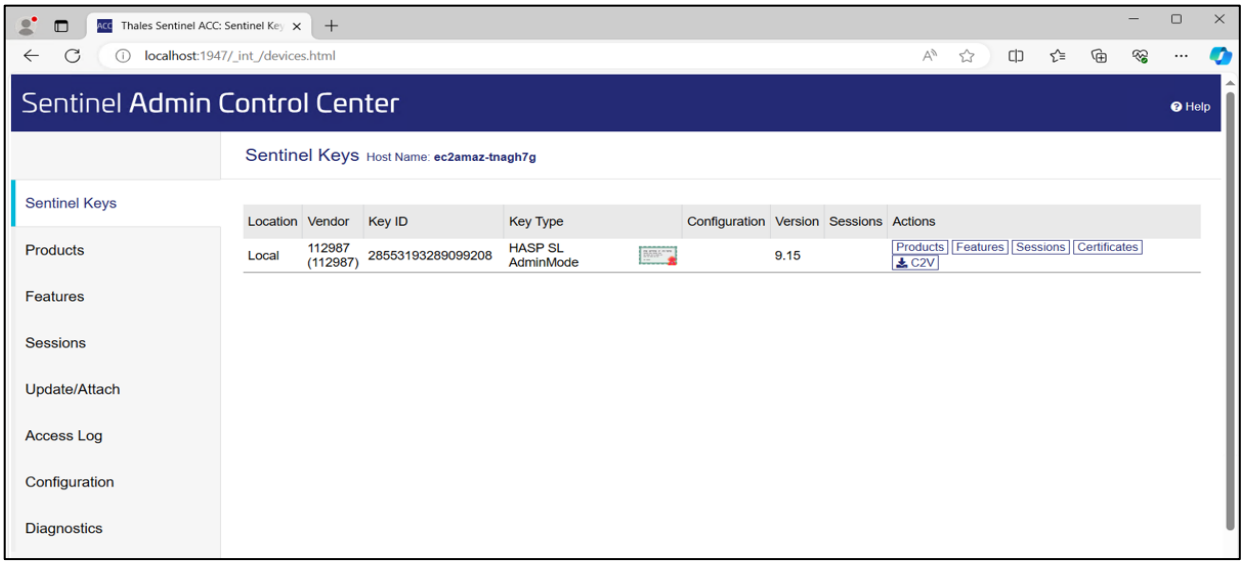
⑥「**Apply File**」ボタンをクリックします。



⑦メッセージ「**Your update was applied successfully**」が表示されたら、
オプションの「**Sentinel Keys**」をクリックします。



Key ID=**フローティングライセンスファイル名**、Key Type=**HASP SL AdminMode**の
キー情報が表示されたら、適用完了です。

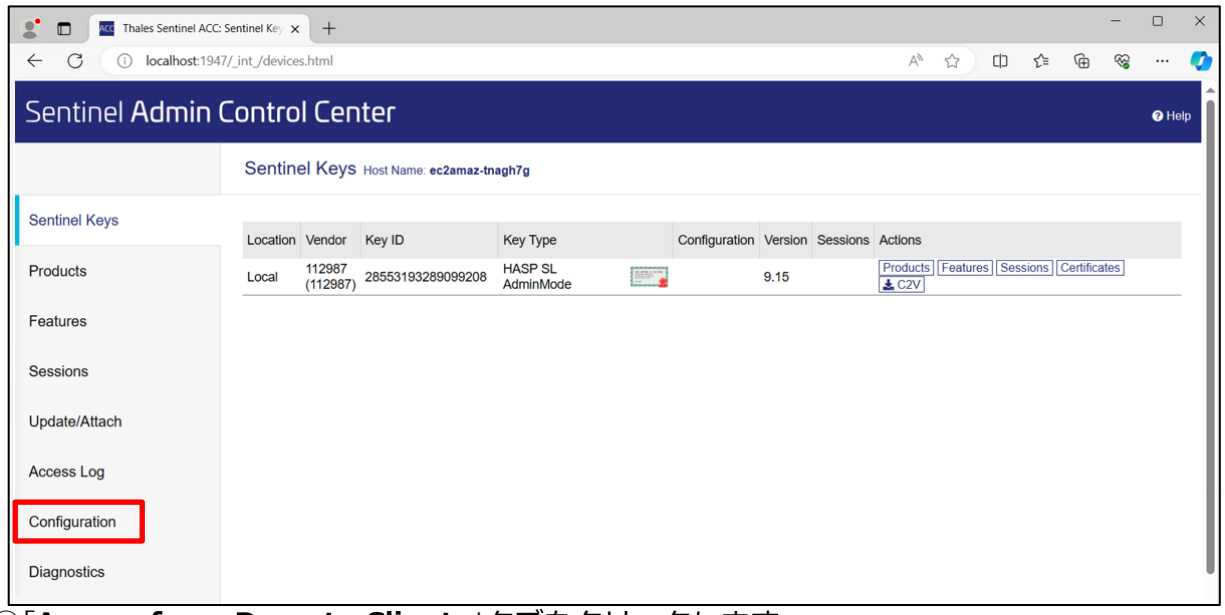


5.Sentinel RTEの設定方法

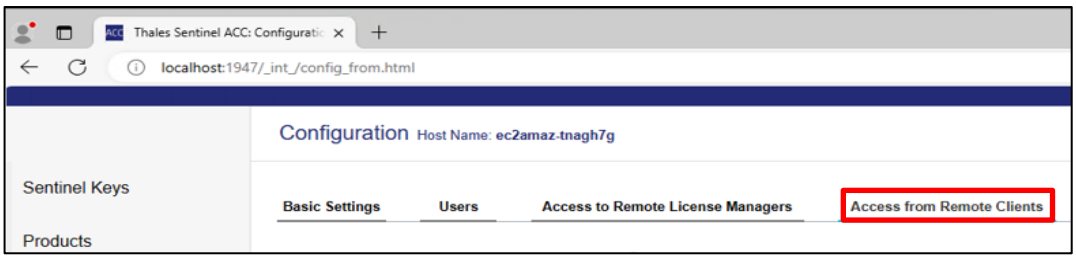
・ライセンスサーバーPCに接続できるようSentinel RTEの設定をお願いします。

①ブラウザーで以下のページにアクセスします。
http://localhost:1947

②オプションの「Configuration」をクリックします。



③「**Access from Remote Clients**」タブをクリックします。

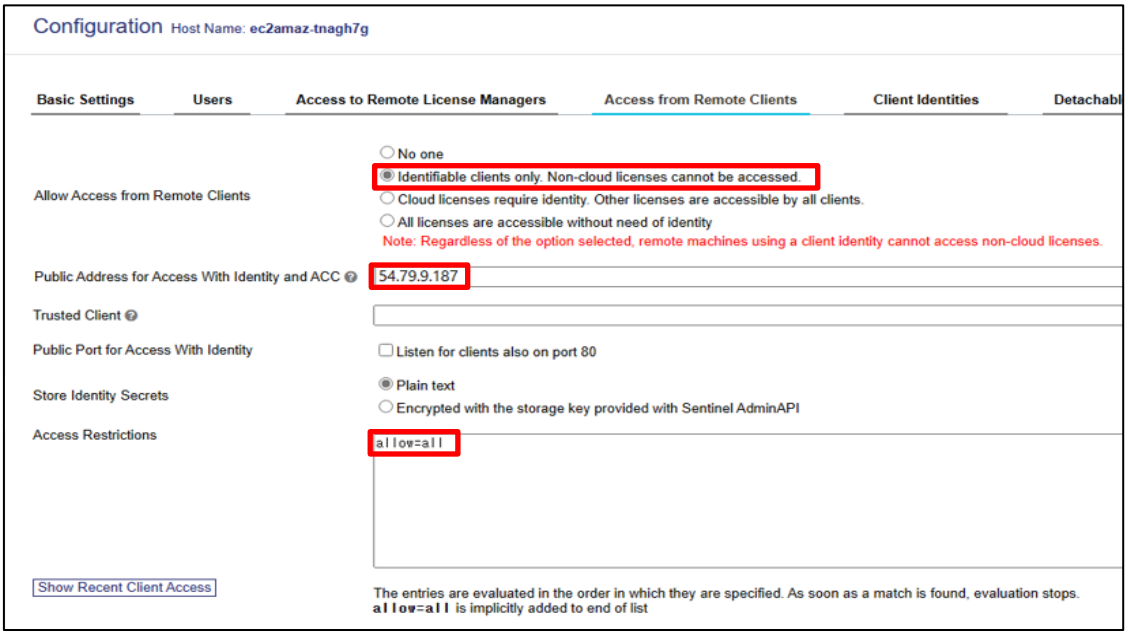


④「**Access from Remote Clients**」タブ以下の設定を行います。

・**Allow Access from Remote Clients** で
「**Identifiable clients only. Non-cloud licenses cannot be accessed.**」を
選択します。

・**Public Address for Access With Identity and ACC** に**クライアントから接続可能なサーバーのIPアドレス**を入力します。

・**Access Restrictions** に「**allow=all**」を入力します。



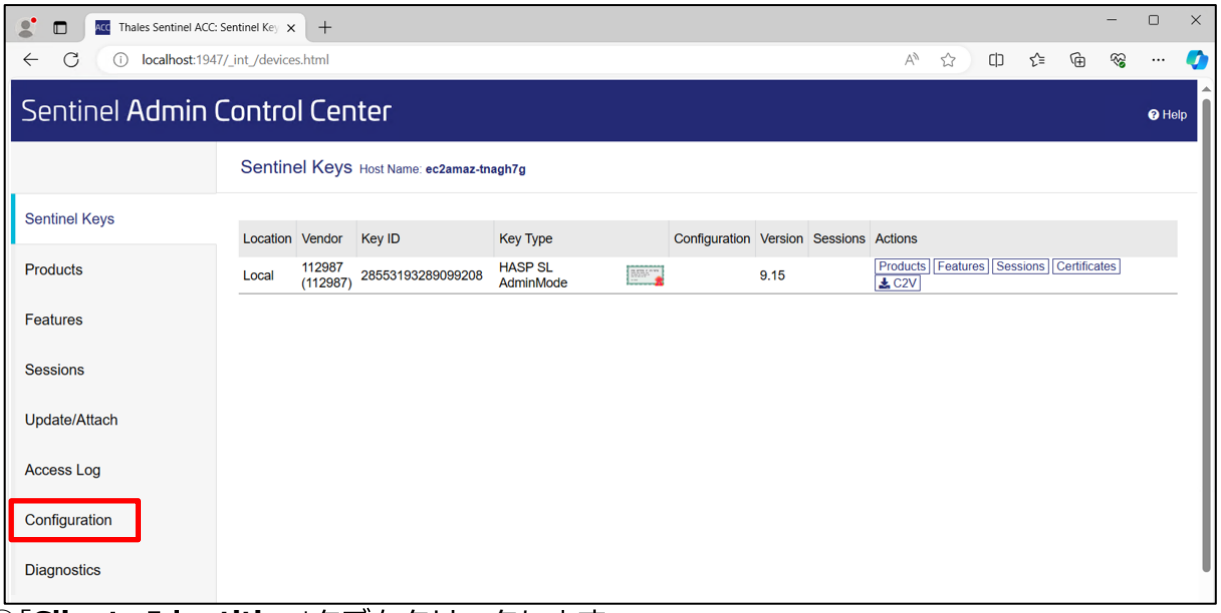
⑤「**Submit**」ボタンをクリックしたら完了です。

6.Identity Stringの作成方法

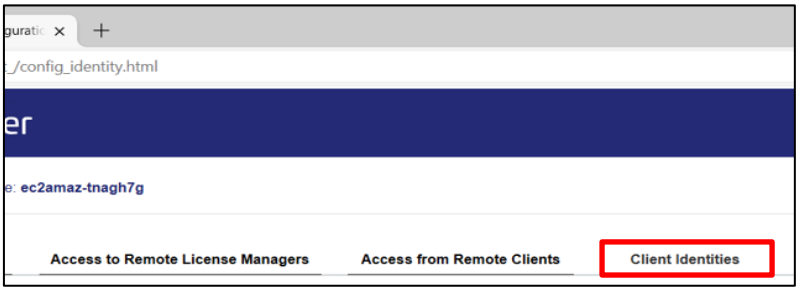
・登録したキー情報を使用して、ライセンス認証用ファイル Identity Stringの作成をお願いします。
※Identity StringはライセンスサーバーPCに接続するためのPC固有の認証用ファイルとなります。
Identity StringはMDiAを使用するPC毎に作成します。
MDiAを10台のPCで使用する場合は、10件必要です。

①ブラウザーで以下のページにアクセスします。
http://localhost:1947

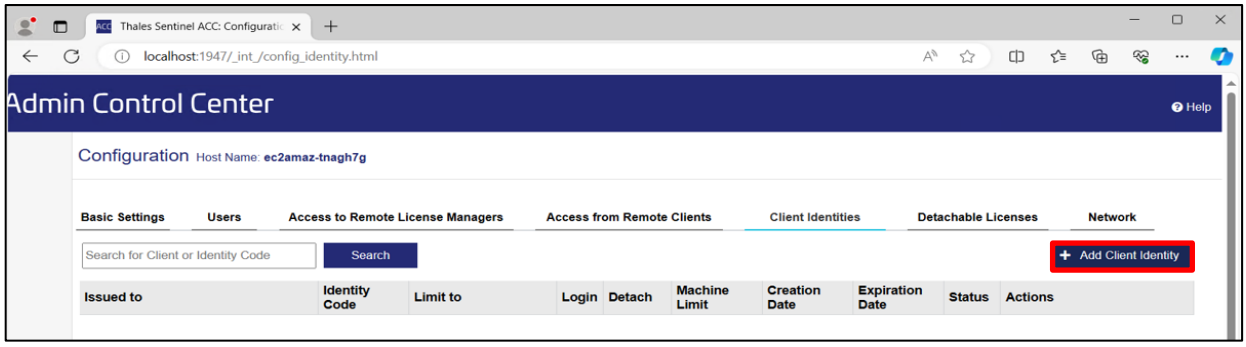
②オプションの「Configuration」をクリックします。



③「**Clients Identities**」タブをクリックします。

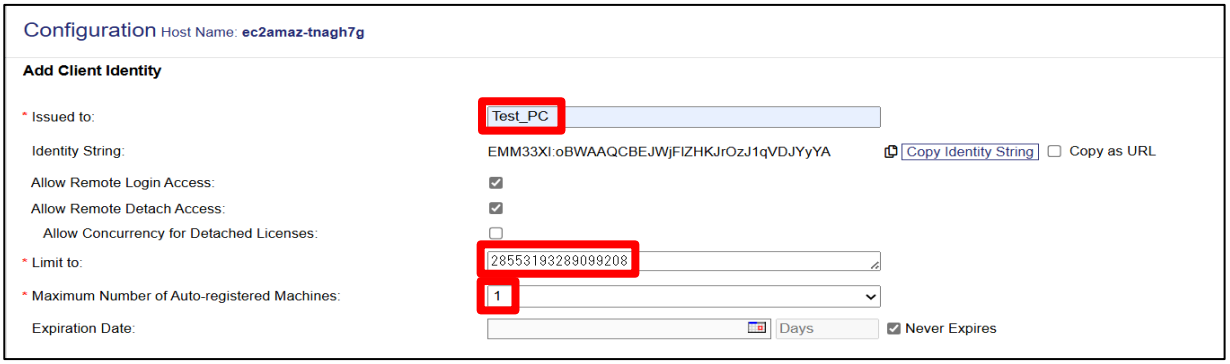


④「**Add Clients Identity**」ボタンをクリックします。



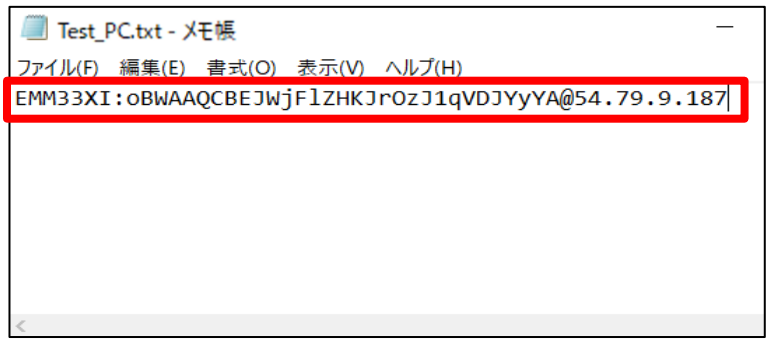
⑤「**Add Clients Identity**」の設定を行います。

- **Issued to** に**クライアントPC名**を入力します。
- **Limit to** に「4.ライセンスファイルの適用方法」で作成した Key ID=**フローティングライセンスファイル名**を入力します。
- **Maximum Number of Auto-registered Machines** に**1(固定値)**を入力します。

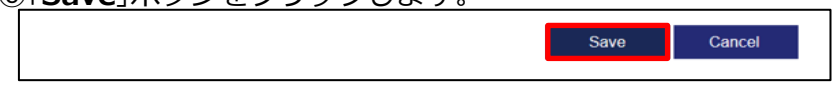


⑥「**Copy Identity String**」ボタンをクリックします。

⑦メモ帳を開き、Ctrlキー+Vキーを押します。
Identity Stringの内容が貼り付けられるので、下記内容で保存します。
名称：　クライアントPC名
形式：　テキスト ファイル(.txt)
場所：　任意



⑧「**Save**」ボタンをクリックします。



⑨⑦で保存したファイルを該当のクライアントPCに送付します。
MDiA Managerでのライセンス認証時に使用しますので、任意の場所に配置してください。

以降のクライアント側の設定は「クイックスタートガイド.pdf」に記載されている
<フローティングライセンスの場合>を参照してください。

以上で、Identity Stringの作成は完了です。

7.MDiA独自設定の追加方法

・ ライセンスサーバーPCに、フローティングライセンス用のMDiA独自設定※を追加します。
※MDiA認証のタイムアウト設定 及び フローティングライセンス専用機能の利用設定です。

①弊社提供の「MDiAFloatingSetting.bat」を実行します。
(「MDiAFloatingSetting」フォルダ内に格納されています。)
以下のメッセージが出てきたら、設定追加は完了です。

8.注意点

・別のサーバー（PC）への変更を行う場合、弊社へご連絡ください。

・使用ポートは「**1947**」となりますので、ファイアウォール等で遮断されている場合は解放をお願いします。

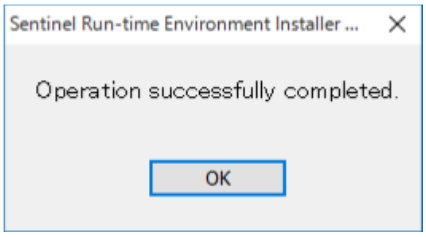
・クライアントPC側の認証先（iniファイル）を設定する必要があるため、
認証サーバーPCのIPアドレス（推奨：固定IP）またはコンピューター名について
アプリケーション使用ユーザーへの周知をお願いします。

9.Sentinel RTEのアンインストール方法

・ 以下の手順に従ってアンインストールをお願いします。

①コマンドプロンプトを「管理者として実行」で開きます。

② 弊社提供の「**haspdinst_112987_<バージョンNo>.exe**」※1 ※2を、①で開いたコマンドプロンプト上で**「haspdinst_112987_<バージョンNo>.exe -remove**」を入力して実行します。
以下のメッセージが出てきたら、アンインストールは完了です。



※1 WindowsServer2025にインストールした場合は**「haspdinst_112987_v10_2.exe」**、WindowsServer2016～2022 及び Windows11 にインストールした場合は**「haspdinst_112987_v9_0.exe」**を使用してアンインストール作業を進めてください。

※2 **「haspdinst_112987_<バージョンNo>.exe」**は、「Sentinel RTE」フォルダ内に格納されています。

10.トラブルシューティング

症状	原因	確認方法
Sentinel RTE設定ページ(http://localhost:1947)を表示できない	Sentinelサービスが起動していない	Windowsのサービス「Sentinel LDK License Manager」の状態が開始になっているか確認してください。
Sentinelサービスの状態が、開始にならない場合	Windowsの別サービスと競合(コンフリクト)が発生している	以下の手順で競合しているサービスを確認してください。 ① Windowsのシステム構成(コントロールパネル >管理ツール >システム構成)を開く ② サービス タブを開く ③ 「Microsoft のサービスをすべて隠す(H)」にチェックをつける ④ 「すべて無効(D)」をクリックする ⑤ 目的のサービス（RTE の場合、Sentinel LDK License Manager）が動作するか確認する ⑥ Microsoft 以外のサービスが全て無効の状態で動作する場合、上記を繰り返し、コンフリクトしている サービスを特定し除去する
クライアント側からアクセス可能にも関わらず、認証できない	通信ポート1947を別のアプリケーションが占有している	以下の手順で占有状況を確認してください。 ① コマンドプロンプトから “netstat –ano” と入力し、アクティブな接続の一覧を表示する ② ローカルアドレス列で、目的のポート 1947 の行を特定し、PID 番号を控えておく ③ タスクマネージャーを起動 >表示(V) >列の選択(S) > PID（プロセス ID）にチェックをつける ④ PID 列から、②で控えておいた番号を特定し、イメージ名が hasplms.exe であることを確認する